

はじめに

高知県立大学看護学部は、1952年に高知女子大学家政学部看護学科として我が国で初めて4年制大学で看護学教育をスタートして以来、実践—教育—研究の連環の中で「看護学とは何か」を探究し、将来に拓かれた看護学の構築にチャレンジし続けています。大学院は、1998年に看護学研究科（修士課程）としてスタートし、2014年に看護学専攻博士前期課程・博士後期課程、博士課程をもつ研究科へと発展し、激動する社会の中で看護のイノベーションにチャレンジしています。

本年報は、看護学部、看護学研究科の教育活動・研究活動・社会連携活動を中心にまとめたものです。看護学部は、創設当初からの“看護学を探究する教育”“看護実践を大切にする教育”“学生の個性を伸ばす教育”を大切に、次代の看護専門職者の教育に力を注いでいます。

2024年度も地域志向の教育・研究を大切に、コロナ禍で身につけたデジタル技術を駆使して、学生と教職員そして地域の方々と協働して活動してまいりました。これまで整備してきたシミュレーション演習設備や上級生による看護技術学習サポーターの本格運用に加えて、ナーシングスキルトレーニングルーム開設、修学カルテ導入に向けた準備など、学生の能動的学習を支援する環境としくみも整備されてきました。また、本学のアセスメントプランに基づき、卒業時のディプロマ・ポリシー評価、各学年の到達状況、卒業生からのカリキュラム評価、就職先の皆さまからの評価などの調査を実施しました。ご協力いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。この調査結果をもとに、看護学部では社会の動向も確認しながら学修者本位の教育・授業の実現を目指して自己点検・評価を継続し、教育の質の保証、教育方法の工夫に取り組んでいます。

学生たちは、日常の学習に加えて、立志社中などの課外活動、ボランティア活動に創意工夫して取り組んだり、海外の長期・短期研修や留学にチャレンジしたりと将来の可能性や視野を拡げています。大学院では、国際的に活躍している卒業生や修了生を講師とした学習会の企画や研究支援、オンラインでの教育の充実に取り組みしました。

教育研究活動の充実に向けて、教員が主体的に教育力・研究力を高められるようFD活動も充実しました。教員それぞれが学内の戦略的研究推進プロジェクト研究、そして競争的外部資金を獲得し、他大学の教員や実践家、大学院修了生との共同研究を実施し、研究成果発信そして実装に向けて継続的に取り組んでいます。

社会連携活動では、高知医療センターとの包括的連携事業や健康長寿研究センターの活動、高知県や県内の市町村との協働事業等、健康文化の創造を目指す活動や、専門職者を対象とした活動を実施しました。また、高知県看護協会との連携事業など、専門職者の方々と共に看護の質の向上に取り組んでいます。

2025年度も、本学の看護学教育の歴史と伝統を継承しつつ、18歳人口の激減する時代を生き抜く戦略をたて、さらに充実・発展してけるよう努力していきたいと考えています。

高知県立大学看護学部
学部長 大川宣容